

各位

会社名 フューチャー株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文
(コード番号 4722 東証プライム)
問合せ先 ファイナンシャル&アカウンティンググループ
執行役員 松下 恭和
(TEL (03) 5740 - 5724)

2024年12月期第1四半期連結業績（累計）のお知らせ

1. 2024年12月期第1四半期連結業績（累計）について

当社グループの当第1四半期連結会計年度（2024年1月1日～2024年3月31日）の連結業績は、

売上高	15,022百万円	（前年同期比 7.6%増）
営業利益	3,417百万円	（前年同期比 7.8%増）
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,189百万円	（前年同期比 0.2%減）

となりました。

当第1四半期連結累計期間における経済環境をみると、不安定な世界情勢、国内におけるインフレーションの継続及び金利の上昇が見込まれる経済環境の中でも、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）や業務改革、生成AI等を利用した新たなデジタルサービスの創出といったITを通じた経営改革への取組みは引き続き旺盛です。また、働き方改革関連法の施行や人手不足への対応の取組みとして生産性・効率性の向上及び企業全体のサプライチェーンの見直し、ESG・SDGs関連分野におけるITの活用も加速しており、あらゆる業種や領域において活発なIT投資が続いています。個人においては、ECサイト経由での購買、動画やオンラインを活用した娯楽やスポーツ観戦、ネットサービス上での教育、自己啓発など、ITの利用が定着し、これらに関連した様々なサービスが生まれています。

このような状況下、当社においては中長期的な成長に資する大型プロジェクトが進行した結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間においては、売上高及び営業利益は前年同期比で増収増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期において将来減算一時差異の見直しに伴い法人税等調整額のマイナスが増加しましたが、当期はその要因がないことから減益となりました。

各セグメントの業績（売上高・営業利益）については以下の通りとなります。

(1) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社（フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む）は、コンビニエンスストアのサプライチェーンにおけるデータを一元管理するデータマネジメントプラットフォームの構築支援、グローバル展開するロジスティクス企業へのWMS（Warehouse Management System）・AIソリューション・クラウド型倉庫制御システムを組み合わせた物流DXプラットフォームの導入など、顧客のDXを推進し、業務効率化を実現するプロジェクトをはじめ、多種多様な顧客の案件を獲得、推進いたしました。

当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、地域金融機関向け次世代バンキングシステム導入プロジェクトが、1行目は当期のリリースに向けた最終的な統合テスト、2行目は開発・テストフェーズに入り、いずれも順調に推移しております。加えて、メディア向けCMS (Contents Management System) 「GlyphFeeds」の導入プロジェクト、アパレル向け基幹プラットフォームシステム「FutureApparel」の導入プロジェクトなどが順調に進捗しております。これらの結果、前年同期比で増収増益となりました。また、当期においては複数の大型プロジェクトのリリースを予定していることから、より一層品質管理の体制を強化しています。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客システムのシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が好調に推移しましたが、採用コストが増加したことから、前年同期比で増収減益となりました。

F u t u r e O n e 株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注が増加したものの、大型の開発案件がピークアウトした影響により、前年同期比で減収減益となりました。

株式会社ワイ・ディ・シーは、製造業を中心とした顧客に対して、DXコンサルティング等を通じたデータ活用による工場マネジメントのデジタル化を実現する「SmartFactory」構築の牽引に加え、DX案件実行を通じた顧客への価値訴求の結果、収益性が向上したことなどから、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社ディアイティは、サイバー防御演習やセキュリティコンサルティング等のセキュリティサービスの売上比率は増加しているものの受注高は大きく伸びず、採用コストが継続して発生しており、前年同期比で減収減益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は13,041百万円（前年同期比6.5%増）、営業利益は3,533百万円（同4.5%増）と増収増益となりました。

(2) ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、経営改革の取組みとして、前期から推進しているデジタルプラットフォーム活用による単品管理と戦略売価設定により粗利率を改善するとともに、物流効率化により物流費を削減いたしました。また、単品での収益管理を徹底しながらアパレル商品のクリアランスを進めた結果、前年同期比で減収となったものの、営業損失額は縮小いたしました。

東京カレンダー株式会社は、メディア事業の売上が想定に届かなかったものの、「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移したことに加え、業務効率化とコスト圧縮により、前年同期比で減収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、スポーツチーム向けの会員管理・ECパッケージ「FastBiz」を複数のプロ野球チームに導入する案件に加え、プロサッカーチームへの展開も開始したことから売上が増加したものの、e s p o r t s 事業の立ち上げに係る費用が発生したことから、前年同期比で増収減益となりました。

株式会社キュリオシティは、ジュエリー、腕時計等の海外ラグジュアリーブランドのストアデザインが順調に進捗いたしました。同社は前連結会計年度の第2四半期から新規に連結しており、当連結会計年度より業績が通期寄与いたします。

この結果、本セグメントの売上高は1,972百万円（前年同期比13.8%増）、営業損失は38百万円（前年同期は営業損失175百万円）となり、前年同期比で増収増益となりました。

なお、報告セグメントにおけるフューチャー株式会社の持株会社機能の収益並びに費用及びセグメント間の取引消去を計上する「調整額」の営業損失が86百万円となり、前年同期比で82百万円の減益（前期は営業損失4百万円）となりました。これは、主にフューチャー株式会社が株式会社リヴァンプの株式取得関連費用を計上したことによるものです。

2. 今後について

(1) グループ戦略について

中長期的な事業環境としては、DXやリモートワークをはじめとする働き方改革等の変化に加え、ESG・SDGsなどの経済、社会的な課題への対応の要請もあり、企業の積極的なIT投資は続くものと予想されます。

当社グループといたしましては、ITを通じて経営改革を進める企業のニーズを的確に捉え、グループシナジーを発揮しながら多面的、積極的に支援することで、多種多様な顧客からの一層高い支持が得られるように努めてまいります。

また、ESG・SDGs関連の取組みにおいても自社の取組みを進めると共に、環境対応や脱炭素化に向けた顧客の取組みを支援してまいります。

加えて、グループとしての知的財産の有効活用や、M&Aも含めた機動的な戦略投資を行うことで、ビジネスモデルの進化を図り、次期以降の更なる成長へとつなげると共に、継続的な人材採用、教育、研究開発への投資といった将来の成長に資する事業基盤の整備を進めてまいります。

併せて、グループ内のコミュニケーション強化、品質管理精度の更なる向上等、グループガバナンスの強化を実施してまいります。

各セグメントの特記事項は次の通りです。

(2) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社においては、経営改革を図る顧客からのグランドデザイン及びDXの推進を意識した、多様な業種からの基幹システム刷新等の案件を受注いたしました。足元では、物流における2024年問題の解消に資するソリューションとして、AIによる配送ルート最適化等を物流業、流通小売業向けに提供し、顧客と共に業界の課題解決に取り組んでいます。

業界の永年の課題解決に資するITソリューションの提供、企業戦略全体の高度化支援といった、顧客価値の最大化に資する取組みを続けるとともに、「GlyphFeeds」「FutureApparel」「Future LOGI」等の当社の知財を活用した顧客の課題解決にも積極的に取り組むべく、新たな顧客への提案活動を進めています。「次世代バンキングシステム」については、当期において1行目のリリースを確実に成功させることと並行して、新規行の獲得に向けて取り組んでまいります。

さらに、人材の獲得や教育への投資、品質管理、プロジェクトマネジメントの強化に取り組むことで、これからの時代をリードする体制作りを行ってまいります。

フューチャーインスペース株式会社は、既存顧客システムにおけるシステム基盤更改およびクラウド移行案件など、複数の大型プロジェクトの開発を安定的に進めるために、更なる開発品質向上と人材の採用・育成を行い、着実に収益を拡大いたします。

FutureOne株式会社は、引き続き、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の業界特化型の営業展開により受注を拡大するとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューションを顧客に提供することで収益の更なる拡大を目指します。

株式会社ワイ・ディ・シーは、製造業向けDXコンサルティングと「SmartFactory」構築に加え、従来のデータインテグレーションにおける大型案件の獲得によりビジネスの拡大を狙います。また、グループシナジーの発揮による物流領域での新規案件の獲得と、サステナビリティ経営のあるべき姿を追求するコンソーシアムを通じたESG領域での貢献により、収益の更なる拡大を目指します。

株式会社ディアイティは、危機管理対応とセキュリティ診断サービスに注力し、子会社のサイバー・ソリューション株式会社と共同でセキュリティライフサイクルを提供しています。また、フューチャーグループ各社の既存顧客へセキュリティの専門サービスを提供することでシナジーを迫及し、収益拡大を目指してまいります。

(3) ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、デジタルプラットフォームの活用によるアナリティクス精度の向上とデータドリブンでの業務効率化、迅速な意思決定により、収益を回復すべく引き続き努めてまいります。また、今後の新たな成長の柱とすべく一部プライベートブランドのリニューアルを着実に進めてまいります。

東京カレンダー株式会社は、ユーザーデータの分析や利活用によるデジタルプロモーションの強化により、集客力とユーザーエンゲージメントをより一層高めてまいります。また、月刊誌、WEB、SNSなどのメディアと、「東カレデート」「グルカレ」などのサービスの連携を強化し、各事業の更なる成長と収益拡大を目指してまいります。

ライブリッツ株式会社は、会員管理・ECパッケージ「FastBiz」をスポーツチームのみならずスポーツ以外のエンターテインメント向けに展開すると共に、データ分析技術を活用してe sports事業の拡大を進めてまいります。

株式会社キュリオシティは、プロジェクト規模が大きくなる高級ホテルやハイエンドレジデンスのインテリアデザインの事業に注力するほか、世界的なブランドのストアデザインを顧客の世界展開に合わせて継続的に受注してまいります。併せて、キュリオシティのデザイン哲学を理解・実践し、グローバルに対応できるデザイナーの採用を行ってまいります。

以上

●本件に関する問い合わせ先：

フューチャー株式会社 ファイナンシャル&アカウンティンググループ 松下恭和

IR 直通 Tel：03-5740-5724 電子メール：ir@future.co.jp